

こんにちは！お元気ですか。

マツサカエンジニアリング 26号を送ります！お楽しみください！

（※お電話頂いた時は・・・お電話有難うございます。

メック（英文名：Matsusaka Engineering Co., Ltdの頭文字でMEC）です！と応答しますので

宜しく願います）

—★ News Topics ★—

- [1. MEC 市場情報] 温暖化規制～低炭素化そして脱炭素化へそして製品開発は！
 - [2. MEC 技術部発信] 回転方向と作業の怖さ・・・回転体の緩みとは！
 - [3. MEC 製造部情報] 製造現場 の令和維新！ 基本に戻って改善奮闘！
 - [4. MEC 市場情報] QP-T205SLT 国内販売の変遷と広がり！
 - [5. MEC 営業部発信] 聞くは一時の恥！ 今更聞けない初歩的な質問ってなんぞや？
-

☆☆—————☆☆
TOP NEWS 当社おすすめ商品・イチ押し商品をピックアップ
—————☆☆

【温暖化規制～低炭素化そして脱炭素化へそして製品開発は！】

弊社は経営上の柱として長年「ISO9001 品質マネジメントシステム(Q・M・S=Quality Management System)

による活動」に取り組んでおります。行動方針の中で、弊社の事業領域がエンジンを動力とするポンプの製作で

有る事、そして脱炭素化を意識した製品の実現が規定されています。

今日迄も、企業活動に適用される法規制や各種ルールは・・・環境保全や労働衛生・有害物質・製造物賠償

・安全規格等々非常に広範囲なものがあり現在弊社を取り巻く関連規制を参考迄に添付リストにあげてみました。

<http://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2022/04/FOREIGN-REGULATION.pdf>

継続企業として企業活動する限りコンプライアンス(法令遵守)は最も重要な監視事項であり、Q・M・S事務局内の

コンプライアンスチームが監視・担当部署への指示等を行っております。

一方、昨今よく耳にするのが「SDG's 持続可能な開発目標」とか「カーボン

ニュートラル」「脱炭素化」という

言葉です。世界の多くの国が共通の認識と共通の目標で取り組みを進めている「よりよい地球にする為のキーワード」

ですが脱炭素化については地球温暖化の原因となっている二酸化炭素など温室効果ガスの排出を防ぐために、石油や

石炭などの化石燃料からの脱却を目指すことです。2015年のパリ協定で決まった「世界平均気温を1.5~2℃抑える」

という目標の達成が難しいと判断されたため、「脱炭素社会」を目指すようになった訳ですが日本でも2020年10月、

政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを目指すことが宣言されました。

化石燃料使用のエンジンを動力とする製品製造を事業領域とする我々に大きな問題であると同時にこれからの製品開発で

大きな課題にすべき事です。

弊社に於きましても日々発行する社員報の中にも下記のような脱炭素への関心の日報記事が見られたり、又海外市場からも

昨今の業界の動き情報が伝えられてきています！エンジン業界内でも本田技研工業

(株)の製品電動化の一環として電動

パワーユニット eGX が建設機械に搭載されはじめ、周辺環境に引っ張られ気運も整った弊社も「作業機ポンプの電動化研究」

の準備が始まっております。

《ある日のチーム日報記事です！》

1. 先日ニュースで、日本企業から空飛ぶバイクが発売されたとありました。ドローンのような仕組みで、1台あたり

7,770万円。限定200台はすでに完売で、この4月から引渡しとの事。法整備は未だ、公道使用は不可で浸透するには

多くの課題があると思いますが、確実に時代が変化しながら動き出しています。

MEC製品も「脱炭素」に向けた世界の大きな流れの中に置かれています。課題や困難も多いと予想しますが、脱炭素化の

製品化に向けて取り組みたいと思います。

《ある日のチーム日報記事です！》

2. 先日、ニュースでM自動車メーカーが2サイクルエンジン開発を検討という記事を見ました。ひと昔前は、2サイクル

エンジンは一般的なもので大きさの割には出力が大きく構造が簡単で、安価で好まれていたが、構造上の難点有り、

潤滑用オイルと一緒に燃焼し、有害物質の排気ガス放出するので近年の環境対応上、衰退していった物でした。

《ある日のチーム日報記事です！》

3. ロンドンでは市内都心部で日常的な渋滞を改善の為「混雑税・渋滞税」という少し変わった都心エリアでの通行課税が

採用されている。電気自動車等の環境負荷が少ない自動車は税が免除され、徴収された税金は公共交通改善に使われると。

渋滞低減・税収増・環境改善等に効果、画期的なシステムだなと思ったが！

《アメリカ代理店からの情報です！》

4. 米国のカリフォルニア州は最近、家庭用及び商業用の化石燃料駆動の園芸庭園機械の使用について 2024 年迄に禁止

する事を法令化しました。芝刈り機・草刈り機・トリマー等は全て電動或いはバッテリー駆動となります。既に州知事は

車・トラックのメーカーに対しても 2024 年以降に 2035 年迄の代替動力への切り替えの実施の法令に署名をしております。

次に州政府が建機関係を対象とする。既に産業機器メーカーの数社はランマー・プレート・発電機・小型エキスカベーター

等のバッテリー駆動を紹介し始めています。これらの製品は高価なものになるでしょう、然しながら法令規制がかかる訳

ですから選択の余地がありません。

米国の大手レンタル会社は既にクリーンエネルギーを見越した部門を立ち上げています他のレンタルも追随していくでしょう！

(和田記)

☆☆—————☆☆

MEC 技術部発信：回転方向と作業の怖さ・・・回転体の緩みとは！

—————☆☆

先日ニュースで「大型車のタイヤ脱落事故が過去 10 年で多発」との記事がありました。

しかも左側後輪の脱落が事故全体の 95%を占めているということで、品質にうるさい MEC 社員としてその原因を調べてみました。

要因 1：

ちょうど 10 年程前にナット締付規格が JIS から ISO に変更されたこと

JIS は右側タイヤは右回転ナット、左側は左回転ナット ⇒ ISO はどちらも右回転

要因 2：

ナット回転方向の変更に加え、日本の道路事情の関係

左折はゆっくり曲がるため、特に左側後輪に捻じれる負荷が掛かりやすい

右折は左折よりも速く曲がるため、左側後輪により強い遠心力が掛かる

専門家の様々な見解があるようですが、国土交通省からは「脱落事故防止キャンペーン」として啓発用チラシが出ていますので、

特に大型車ドライバーは注意して欲しいと思います。

ところで MEC の回転体と言えば、インペラー（羽根車）が代表的な部品です。動力軸への取付方式がネジの場合、インペラーの回転方向を踏まえて取付方向を決めています。つまり、回転方向の決まったインペラーを逆に回した場合、性能は出ないことはもちろんのこと、タイヤのようにインペラーがポンプ内で脱落する可能性もあるのです。

「BH シリーズ：単体ポンプ」については、お客様自身で動力にセットする際に、インペラーの回転方向がわかるように軸受箱に矢印ステッカーを貼り付けて注意喚起しています。ところが、これほど重要な事でも社内では矢印ステッカーの向きを反対に貼り付けるという失敗を過去に犯してしまいました。これを改善の機会と捉え、社内 QMS 活動に従い、根本的な改善として「軸受箱に矢印を浮き出す」ように金型を変更する対策を実施する予定です。

（技術部 眞弓記）

☆☆—————☆☆
MEC 製造情報： 現場の令和維新！ 基本に戻って改善奮闘！
—————☆☆

三重多気工場で生産活動を始めて 28 年！毎年数万台の QP ポンプが国内外に送り出されています！

当然ながら「社内の提案制度や改善活動」は長い間ずっとずっと取り組んでいます。今年ほどメッチャ基本に帰って 皆で取り組み改善を実感できている事は過去になかったという感じがします。私達の製造現場は、技術部が設計を担当し製品として登録された「ポンプに構成されている部材」が資材管理部によって各部品メーカーに発注され、そして納品されます。それらの部品をタイムリーに準備し決められたスピードとシステムで正確に製品に仕立て上げるのが、我々製造部の「役割責任」なのです。

マガジンの今回のテーマは現場で実際に取り上げ、検討したり実施している活動ですが（現在も色々に検証中・奮闘中ですが）、ええっ！まだこんなレベルの改革やっているの？と思われる方もいるかもしれませんが、何せすべてが基本に戻る！です！
イメージを持っていただける様に出来るだけわかりやすい改善をニュースにしてみま

した！

経験も知識も違う各員が共通のスタートラインに立つ為に、基本的な改善に対する共通の認識を持つ為に最初にインター

ネットでの改善事例も皆で一緒に繰り返し見て参考にする所からのスタートでした！

一番先に参考にしたのはYouTube

トヨタグループの三浦さんの改善アドバイスです！

<https://www.bing.com/videos/search?q=%e4%b8%89%e6%b5%a6%e8%81%a1%e5%bd%a6&qpv=%e4%b8%89%e6%b5%a6%e8%81%a1%e5%bd%a6&FORM=VDRE>

1月～3カ月の間に毎日の業務の中で「面倒だ！時間が掛かる！手間がかかる！わかり
難しい！流れが不明確！重い！動き

にくい！手待ちが多い！走り回る！等々」に該当する各種業務を引っ張り出し、さあ
どうするかで始まりましたが、まずは

3カ月の取組みの中での改善点抽出から実施決定迄に、「ワオ～！時間かかるう
～！」と感じた事が～次の様な事でした：

1. 業務の中で「これが課題だ！」を引っ張り出す気づきの大変さ！当たり前慣れ
て気が付かない！

2. 課題問題点が出てさあこれはどうするか！中々に結論がでない！意見が割れ
る！

3. 皆で話し語り合うワイガヤ・デモクラシー的なやり方は時間が掛かりすぎる！

4. 試行検証が思った以上に時間を要し其の内に現実の業務に追われ後回しそして忘
れてしまう！

それでもこの3カ月間に当たり前に行っていた作業のやり方・ラインの流し方・チー
ム内ルールの決め方・動き方・保管容器

・ピッキング・緊急事態の対応等々で改善が進んでいます。

ビフォー・アフターの効果度合いの確認も残っているものもありますが、まだ三合目
位ですが、考えた改善を自分達で「形に

するのが楽しくなり始めている所」です。

少しだけ実施例を紹介致します（添付参照）。

<http://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2022/04/MG-Reform.pdf>

引き続き継続的改善に取り組んで参ります。「QP製品」の一層のご愛顧の程宜しくお
願い致します。

（製造部 松本記）

☆☆—————☆☆

国内販売の変遷と広がり！ 超高压ポンプ QP-T205SLT

—————☆☆

MEC の高圧・高揚程モデル QP-T205SLT、1～4 インチまで多彩なバリエーションをそろえる QP 高圧シリーズの中でも QP-T405SLT と並び当社のフラッグシップと呼べる製品です。其の性能は最大揚程 95m！最大吐出量 480ℓ/分！！ 国内他社の高圧モデルの最大揚程が 50～80mのところ QP-T205SLT は 95m の超高圧！何処よりも遠く高く送水することができるんです（エッヘン！）所で QP-T205SLT と T405SLT、モデル名に TT 兄弟でもないのにやたら “T” が入っているのは何故でしょう？？ 知る人ぞ知ることですが、T205SLT には超高圧を出すためにインペラーが 2 枚入っているんです！2 枚=Twin の “T”、国内のエンジンポンプでは MEC だけのシステムなんですよ（エッヘン！）QP-T205SLT も発売から早 20 年、使用目的も単なる農業灌水だけではなく、果樹のスプリンクラー防除、土木建設での防塵散水、工場配管のピグ洗浄や初期消火用、海洋土木での浚渫作業用、そして養殖漁業の漁網洗浄などに広がりを見せています。他社には無い性能のポンプです。是非、貴社の営業範囲でも活用をお願いします！

◆ [QP-T205SLT の国内販売の変遷と広がり] はこちら ↓↓

<https://youtu.be/BfZA0X6M44A>

（営業部 福澤記）

☆☆—————☆☆

MEC 営業部発信：聞くは一時の恥！ 今更聞けない簡単な問合せ

—————☆☆

これから納屋で長～く眠っていたポンプを起こし、ポンプが大活躍する時期の到来です。

QP ポンプが一生懸命仕事している場面に遭遇する機会が多いこの 4-5 月は、どうしても外に出るとポンプを探してしまいます。

耳を澄ますと、エンジン始動音の『ブルルルン』や 散水している音が聞こえてくると 何だかワクワクしてしまいます。

これはやはりポンプメーカーで働いているからでしょうか・・・？

しかし、冬眠する前にメンテナンスしていないと、上手く始動出来ずトラブルが起きます。そしてこの需要期シーズンに入ると

問合せが急増する質問があります。

それは・・・ 修理/メンテナンスに関係する事です。

その中で毎年必ずと言っていいほど聞かれる基本的な質問を受けますが、MEC ニュース愛読者の皆さんだったらすぐ答えられる

